

# 講演概要集

善循環の輪の集い in 福島

第9回東日本大震災復興支援環境フォーラム

～食と農の未来を拓く～



認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク

## 本日のプログラム

10:00-17:00	EM マルシェ
12:00	受付・開場（昼食は済ませてお越しください）
12:30-12:35	開会挨拶 認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク 福島県理事 武藤麻央
12:35-12:40	来賓のご挨拶 参議院議員・超党派有機農業推進議員連盟 事務局長 室井邦彦様
12:40-12:50	U-net の活動紹介 認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク 事務局 伊藤由規
12:50-13:50	福島県内事例発表 1. 石井農園（石井孝幸） 2. 福島 EM クラブ（佐藤和幸） 3. 馬場 EM 研究会（羽根田薫）
13:50-14:35	先進事例発表 認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク 愛媛県理事 野本千壽子
14:35-14:45	休憩
14:45-16:05	特別講演 1 インド・シッキム州での EM 技術を活用した有機農業化への取り組み Maple Orgtech (India) Ltd. マダン・モハン・モハンカ会長
16:05-17:05	特別講演 2 EM 技術の最新情報 認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク 理事長 比嘉照夫
17:05-17:10	閉会のご挨拶 認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク 東北地区理事・執行委員 五十嵐諒

プログラムは変更される場合がございます。ご了承ください。



## 本日の講演概要

### 自然との共生可能な農業を目指す！

1993年、比嘉教授の著書「地球を救う大変革」との出会いが、農を志すきっかけとなりました。講習会や勉強会に参加し、EMやEMポカシの作り方を学ぶと同時に、独自に実践を重ねました。また、大規模減農薬栽培を実施する農業法人に就職、その一年後に父親の地元であった須賀川市に移住し、新規就農しました。EM、EM堆肥、EMポカシ等を活用した土づくりを基本に、無農薬・無化学肥料でキュウリやレタスを栽培、現在はJA、直売所、豊洲市場、築地場外等に出荷しています（写真1）。震災後、放射能汚染の風評から紀ノ国屋等の取引が無くなり売上が激減しましたが、無農薬では難しいとされるキュウリで無農薬栽培を実現し、且つ、味も美味しいと評価を得たことから需要が高まり、現在は売上也回復しつつあります。また、農が身近にあり、農家と消費者が互いにコミュニケーションができる社会づくりが大切との思いから、EMに興味のある方達を対象に勉強会を行っています。

### 食農教育を通じて子供たちに生きる力を学んでほしい！

当時小学生だった自分の子供の自由研究がきっかけとなり、地元の小学校の総合学習（環境教育）の授業を担当することになりました。3年生にはEMを活用した作物栽培を、4年生にはEMを活用した環境浄化活動を、年間を通して定期的に指導しています（写真2）。子供たちは、キュウリ、ナス、トマト、ダイコン等を自ら栽培し、収穫後はそれを食する体験をします。また、食物連鎖の底辺を支える微生物の働きや環境保全における微生物の重要性を学ぶとともに、実際に自ら有用微生物であるEMを培養し環境浄化実践活動を行うという実体験もします。これらの授業は、学習指導要領で定められた「命の大切さと生きる力をつける」という目標の達成に寄与しています。この学習は10年以上も継続していますが、環境を守ることや食・農の大切さを学ぶだけでなく、様々な作業を通じて責任感、創意工夫、協力といった生きる力を育む機会になっています。

これからも、地球環境を守り自然との共生が可能な農業を実践し、EMを活用した食農教育と環境浄化実践活動を通して、子供たちの生きる力を育てていくことが私の願いです。

## プロフィール

認定 NPO 地球環境共生ネットワーク福島県世話人。自然農法国際開発研究センター自然農法普及員。

日本一のキュウリの生産地である須賀川市にてEMを活用し無農薬・無化学肥料でキュウリ、レタス等を栽培する専業農家。



写真1. ベレッシュ農産物直売所



写真2. 小学校での授業の様子



## プロフィール

福島 EM クラブ代表。

わくわく農業クラブ代表。

福島市農のマスターズ大学一期生。

3カ所 55アールの農地で年間約 100 種類の EM 野菜を栽培、仲間と共にマルシェ（市場）にて販売しています。また、旬の野菜を活かした郷土料理の調理指導も行っています。

## 本日の講演概要

### EM で広がる仲間の輪

生活協同組合に在職中、食品の調理・販売・流通業務に携わってきました。その際、同組合の知人から EM のことを学びました。定年後、福島市農のマスターズ大学にて有機農業を学び、「わくわく農業クラブ」を立上げ共同農園を開園、その後、新規就農しました。2011 年の東日本大震災と福島第一原発事故の影響で、活動の休止を余儀なくされましたが、山形の EM 関係者の方達からボカシ肥料の支援を頂き、直ぐに農園を再開することができました。そして、・・・

- 「土に触れて栽培を楽しみ、安心して美味しい野菜を食べる喜びを感じる」ことに共感する農園仲間が増えました。
- 2016 年の環境フォーラムの EM マルシェに出店した際、他の EM 農家仲間との繋がりができました。その仲間たちと収穫した EM 野菜や果物を合せ、福島駅東口駅前広場の GoodDayMarket（毎週日曜日）、コラッセ福島（毎週月曜日）、須賀川の路地 de マーケット（毎月 1 回）、東京青山のファーマーズマーケット（毎月 2～4 回）等のマルシェに出店しています。
- 震災後中断していた近隣の幼稚園児を招待して行うジャガイモ掘り体験会を、今年は 9 年ぶりに再開することが出来ました（写真 1）。
- 福島 EM クラブとエコクラブだてと合同で、EM 研究機構の協力のもと、EM 勉強会を定期的に開催しています。
- 数年前より NPO 法人りょうぜん里山がっこうで郷土料理講習会の調理指導を行っていますが、その縁から同学校でも EM 勉強会を実施するようになりました（写真 2）。益々、EM で仲間の輪が広がっています。

### 夢は伊達市をユートピアに！

私の活動拠点である伊達市、特に霊山町は若者の都市部への流出や高齢化から過疎化が進んでいます。EM を活用した有機農業を推進し、さらに仲間の輪を広げることで、地域の農業を活性化し、若者や県内外からの移住者が安心して美味しい野菜を作って食べる喜びを感じられるような魅力的な田舎暮らしのできる地域づくりを目指しています。



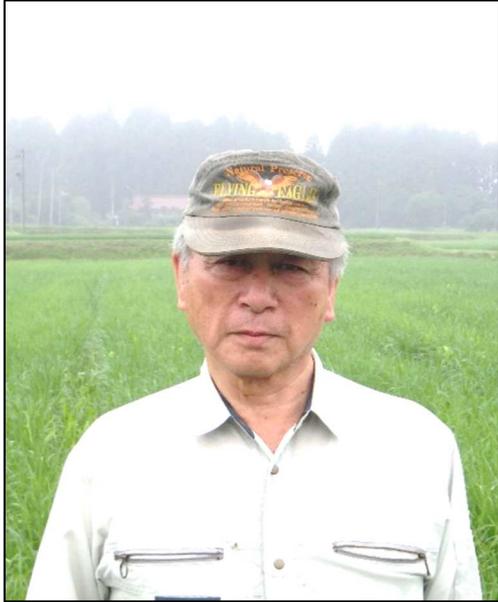
写真 1. ジャガイモ掘り体験会



写真 2. 勉強会の参加者たち

# 羽根田薫 Kaoru Haneda Resume

馬場 EM 研究会



## 本日の講演概要

### 安心・安全を届けたい！こだわり続けた有機農業

有機農法が認知されておらず周囲から奇異な目で見られていた時代、農薬による健康被害や環境への影響を危惧した私は、農地を両親から引き継いだのち、平成 13 年より慣行栽培から有機栽培に切り替えた。その後、平成 23 年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により、水稻栽培を一旦休止せざるを得なかった。放射能汚染に対する対策を見出すため、平成 24 年より仲間と共に馬場 EM 研究会を立ち上げ、地元の憩いの場となっていたグラウンドゴルフ場において EM による取り組みを開始。EM 活性液を定期的に散布したところ、5 か月後には地表面の放射線量が半減した。この成果から、同年より試験的に水稻栽培にも EM の導入を試みた。慣行栽培の対照区の玄米には放射性セシウムが 80 Bq/kg 含まれていたのに対して、EM 活性液を施用した区の玄米には 20 Bq/kg と 1/4 に低減していた。その後も土壌改善効果や生育面でも良好な結果を得たことから、継続して EM を活用し続けている。震災前は相馬・双葉地区で 40 軒いた有機農家も現在は 7 軒に減少と、多くの仲間たちが作付けを断念するなか、2 ha の有機 JAS 認定コシヒカリを栽培している（写真 1）。また、収穫した有機米は友人の武藤氏に提供、有機米と無添加・農薬不使用のこだわりの材料（味噌、塩、醤油、ごま油等）を活かした「ムトウ印の有機米焼きおにぎり（写真 2）」として、南相馬の道の駅やセデッセ鹿島（常磐道南相馬鹿島 SA 下り）にて販売されるようになり、少しずつではあるが復興に向かって前進している。今回は震災以降の水稻栽培における EM の取り組みについて発表する。

## プロフィール

稲作農家。  
福島県環境保全稲作研究会会員。  
平成 13 年より有機農法による稲作を開始。  
平成 17 年より 2ha の水田で有機 JAS 認定コシヒカリを栽培している。平成 24 年より EM の活用を開始し現在に至る。



写真 1. 有機 JAS 認定コシヒカリ



写真 2. ムトウ印の焼きおにぎり

# 野本千壽子 Chizuko Nomoto Resume

認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク



## プロフィール

認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク愛媛県理事。NPO 法人えひめユニバーサルビレッジ研究会代表理事。一般社団法人 EM スペースほしとたんぼ代表理事。

2016 年に全世界で 3 人（国内で唯一）の『EM 親善大使』に任命される。

現在、EM 環境マガジン ウェブ・エコピュアにて「ちずこさんと比嘉セオリー」を連載中。

## 略歴

松山市立小中学校・愛媛県立教育機関に勤務。その後、アトムグループにて、幼稚園園長、松山認定こども園施設長に就任、EM による幼稚園の環境作りを実施。また、アトムグループ内の EM 推進部長に就任し、全職場に「EM とことん推進隊」を設置し普及に努める。アトムグループ退職後、NPO 法人えひめユニバーサルビレッジ研究会及び一般社団法人 EM スペースほしとたんぼを設立、代表理事に就任し、現在に至る。

## 本日の講演概要

### 微生物のすご技を引き出す EM 重力子農業と鳥獣対策

#### EM 重力子農業とは

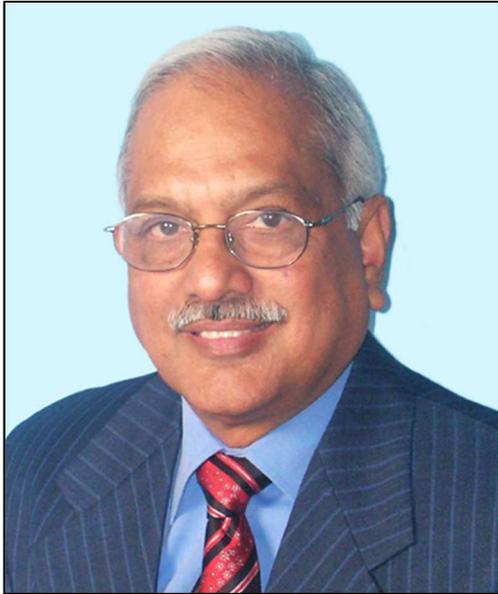
- 微生物は生き物
- 波動数値が実証する慣行農業と EM 栽培の違い
- 土の比較
- 波動の世界とは
- 波動測定値とは
- 数値の差が生じるポイントは比嘉セオリーと重力子農業
- 比嘉セオリーの主役たち
- 主役たちの役目
- 短期間で結果を出す重力子農業のポイントは結界と重ね効果
- 何故結界を作る必要があるのか
- 結界とは、特別なエネルギー空間を作る事
- 台風の濁流に呑まれた畑が無傷
- まがい物シールで台風の被害甚大
- 結界の作り方
- 重ね効果で効果を出す方法
- 不耕起栽培・塩・EM だけで育てるいちごハウスに驚きの結果が
- 農薬を消している EM
- ダイオキシンによる穢れ地を元気に
- いちごの好み音楽や EM 賛詞は効果があるか
- 病気の出たみかんと、きれいなみかんの差は何が原因
- 蜂に代わって EM で受粉したところ
- ごみとして捨てていたものが、宝物になった EM のパワー
- 1 ヶ月で甦った天然記念物のていれぎ
- 果樹に応用できる桜の樹勢アップの方法

#### 鳥獣対策ダイジェスト版

- 集落からもぐらが消えた
- 120%の保険をかけたもぐら除け
- 田んぼのもぐら除け
- 猿・鹿・イノシシ対策(蘇生Ⅱの事例)
- 電柱のない山で確実に結果が出るイノシシ対策(蘇生Ⅱの事例)
- 住宅周りのヘビ除け
- 最新式結界ドームで鳥も寄せ付けない
- ネズミ・ハクビシンの侵入を防ぐ方法

# Mr. Madan Mohan Mohanka (マダン・モハン・モハンカ会長) Resume

Maple OrgTech (India) Ltd.,  
M M Group of Companies, インド



## プロフィール

M M Group of Companies 会長。  
インド・シッキム州は世界初の完全有機農業州として国連より最優秀政策賞を受賞したが、その原動力となったのが EM 技術と同技術の普及母体である Maple OrgTech (India) Ltd.社です。モハンカ会長は、インドにおける EM 導入当初より OrgTech(India)ltd.社の代表として EM 普及に尽力されました。

## 本日の講演概要

### 世界初、インド・シッキム州が 100%有機農業化を達成！

2018 年 10 月、インド・シッキム州は世界初の完全有機農業州として、FAO（国連食糧農業機関）より最優秀政策賞を受賞しました。シッキム州では受賞に至るまでに様々な試みが行われました。

- 2003 年、シッキム州政府は有機農業化政策を開始、農家への化学肥料等の提供を毎年 10%ずつ削減すると同時に、農業教育及び堆肥事業に着手。
- 同政策の一環として、EM 研究機構のパートナーである Maple OrgTech(India)Ltd.社は講習会を開催、EM 技術を使用した農業や堆肥化の方法を指導しました。
- シッキム州の完全有機農業州への移行には、EM 技術を導入した「バイオレッジ計画」が大きく貢献しました。同計画は、食糧安全保障・農業開発省と Maple OrgTech (India) Ltd.社の共同により実施され、EM 堆肥、EM ボカシ、EM 青草発酵液、EM・5 等の作り方や使い方が農家に伝授されました。
- シッキム州では現在、約 15,000 人の農家と約 5,665 ヘクタールの農地がこの計画の恩恵を享受、396 の村が「バイオレッジ」として認定されています。

こうして完全有機農業化に成功したシッキム州は、環境に配慮した持続可能な食糧生産システムを促進する最も優秀な政策を行ったとして、2018 年 10 月、FAO(国連食糧農業機関)から最優秀政策賞を授与されました。現在では州の全ての農場が有機認証を受けるに至っています（EM 研究機構ホームページより引用。 <https://www.emro.co.jp/case/detail/150>）。本公演では、シッキム州での EM 活用による有機農業化への取組みについて発表を頂きます。



写真 1. 講習会の受講生たち



写真 2. 授賞式の様子



**認定 NPO 法人地球環境共生ネットワーク**